
何日も食べてない

geinguns

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何日も食べてない

【Nコード】

N0309D

【作者名】

geinguns

【あらすじ】

衰弱をした友達を助ける感動巨編

レッチリのアnderザブリッジが流行ってた頃

若かった。

バンドもバッキバキにやってた。
今の3倍ぐらい動けてた。

Y君がずっと練習に来なかったことがある。

当時は携帯もない時代である。

彼の一人暮らしの家に電話しても留守電ばかり。
どうかで白骨化でもしてるんじゃないかと心配していた。

しばらくしてY君から電話があつたと母親からいわれ
俺はあわてて電話した。

Y君の声は明らかに衰弱していた。

わけを聞くと金がなくもう何日も飯を食べてないらしい。

いてもたつてもいられなくなった俺は
ちよつと待つてろといって電話を切り

自分でおにぎりを2つ作りアルミホイルにつつんだ。

まってるよゝ死ぬなよゝ

親はあきれ顔で俺を見ていた覚えがある。

とにかくY君の家に着いた俺は
自分の作ったおにぎりを渡した。

Y君はこの味は一生忘れん！とか言いながら食べていた。

そのあとずっといろんなことを彼と話していた。

音楽の事、女の事、夢、未来、、、、いろいろと

将来に漠然とした不安を抱えて

悶々としていた時期だった。彼もそうだったと思う。

酒を飲んでも女の子と遊んでもそれは晴れなかった。

まだ人生について何も分からなかった。今もわからないが、、

ただ友達は大切だなとこの出来事で知った気がする。

（後書き）

食べれるくらいの金は
手元に残しておきましょう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0309d/>

何日も食べてない

2010年10月22日00時21分発行